

質の高いインフラ整備を目指して



参議院議員・薬剤師 本田 顕子

2023年1月23日、第211回通常国会（常会）が開会しました。

政府提出の法案は常会としては例年並みの60本が予定され、来年度予算案の審議が一段落すると本格的な論戦が始まります。厚生労働省が準備している6つの法案の中に、水道行政を環境省と国土交通省に移管するための法案が含まれています。

このことに関連して、今回「水」を話題といたします。

昨年4月に第4回アジア・太平洋水サミットが熊本市で開催されました。岸田文雄首相をはじめアジア太平洋地域30か国の首脳級・閣僚級が参加され、グテーレス国連事務総長のビデオメッセージも披露されました。そして、首脳級会合にて持続可能な水利用のための取組の強化を共通認識とする「熊本宣言」が採択され、今後5年間で約5,000億円の支援が表明されました。

また、このサミットに先だって熊本県選出国會議員の先生方から、行政の縦割りの克服や、産業間で水を分かち合い、洪水や干ばつから安全な地域にするための合意形成とリーダーシップの必要性が示されました。

水は日々の生活を支える大切な生命の源ですが、姿を変えて洪水や干ばつなどをもたらします。昨年9月に台風被害を受けた静岡市を厚生労働省の立場で視察した際には、真っ二つに折れた水道管や橋を見つけ、水道だけでなく道路も橋も流木の除去なども一括して復旧作業を進められる層の厚い直轄組織の必要性を強く感じました。

「水」に関しては、私自身、医療を提供するうえで水の大切さを経験してまいりました。安全で安価な水資源の確保と災害対策はこうした経過や背景とも連動しておりますことを是非皆様にも知っていただき、「水」対策の強靱化につながるよう、充実した法案審議を期待していただければと思います。



静岡市視察の現場にて